

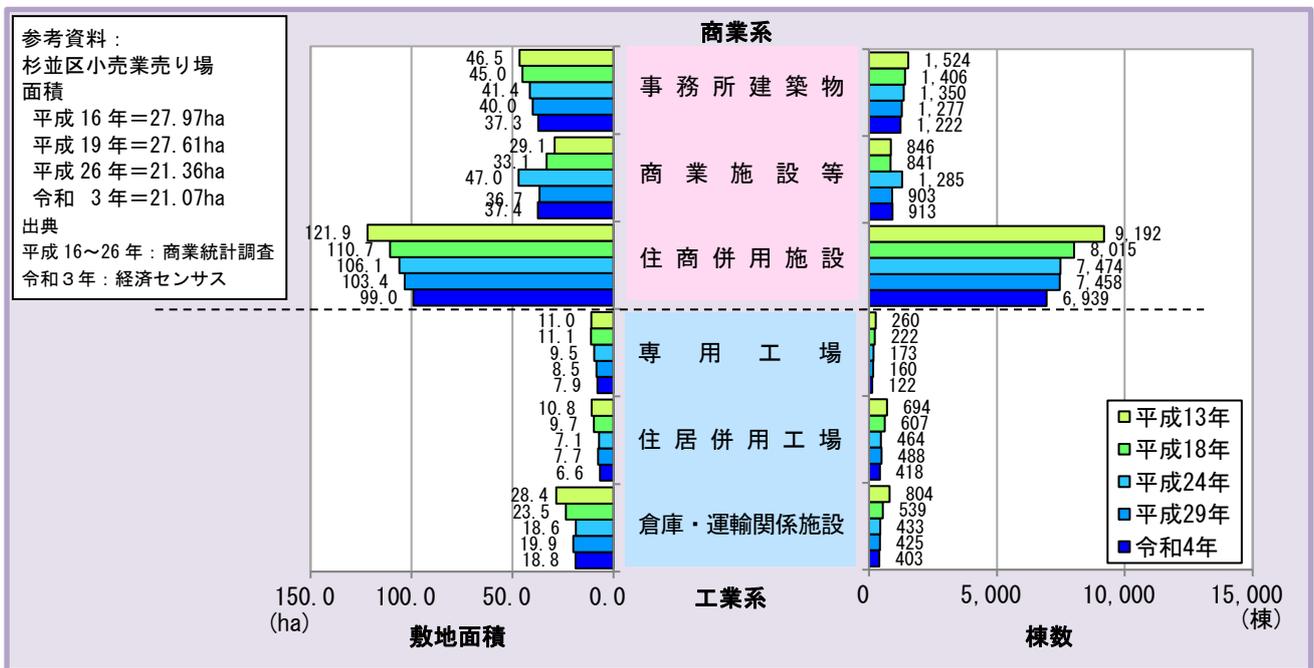
第4章 商業地・工業地の状況

1 商業系及び工業系の土地・建物の構成と変化

◆ 住商併用施設の敷地面積、棟数はともに多数存在しているが減少傾向

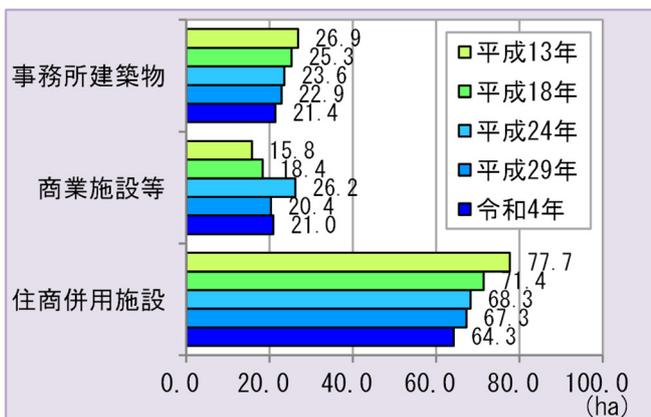
- 商工業系建物の中では、住商併用施設が敷地面積、棟数ともに他用途に比べて多数存在しています。
- 事務所建築物及び住商併用施設は、敷地面積、棟数ともに平成13年以降減少しています。
- 工業系では、平成13年から全体的に減少傾向にあります。

【商業系及び工業系の敷地面積及び棟数の推移】

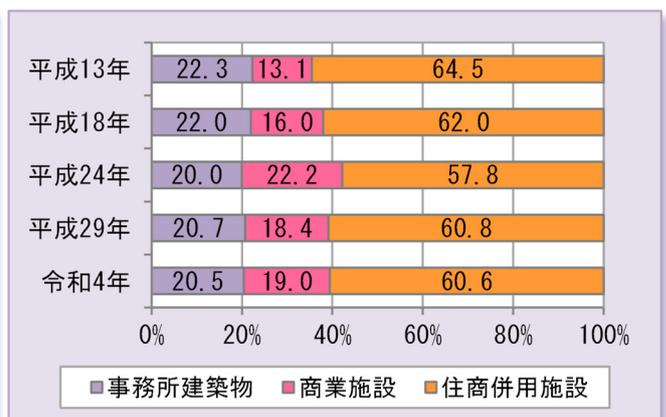


※商業統計調査、経済センサスとは、経済産業省所管の統計調査で、商業を営む事業所について、従業者数、商品販売額等、売り場面積などを把握し、商業に関する施策の基礎資料を得ることを目的とするものです。

【商業系建築面積合計の推移】



【商業系建築面積比率の推移】



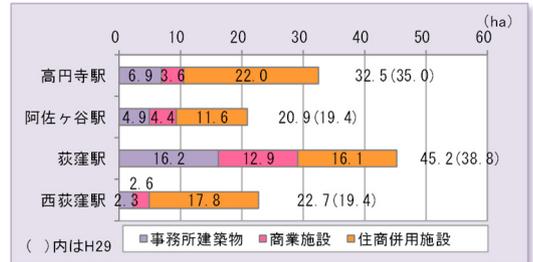
2 拠点における商業系用途の状況

(1) 商業系建物の延べ床面積の状況

◆ 都市活性化拠点の荻窪駅で商業施設の延べ床面積が最も大きい

- 杉並区まちづくり基本方針（杉並区都市計画マスタープラン）における多心型拠点の土地利用状況を見るために、各拠点を中心とした500m圏内について、商業系用途の延べ床面積を比較しました。
- JR中央線4駅周辺で商業系の延べ床面積の合計が最も大きいのは荻窪駅で、高円寺駅、西荻窪駅、阿佐ヶ谷駅と続いています。平成29年と比較すると、高円寺駅で減少していますが、阿佐ヶ谷駅、荻窪駅、西荻窪駅で増加しています。どの拠点においても住商併用施設の割合が高い状況です。
- 身近な生活拠点では、井荻駅や新高円寺駅方南町駅、高井戸駅などで増加しています。

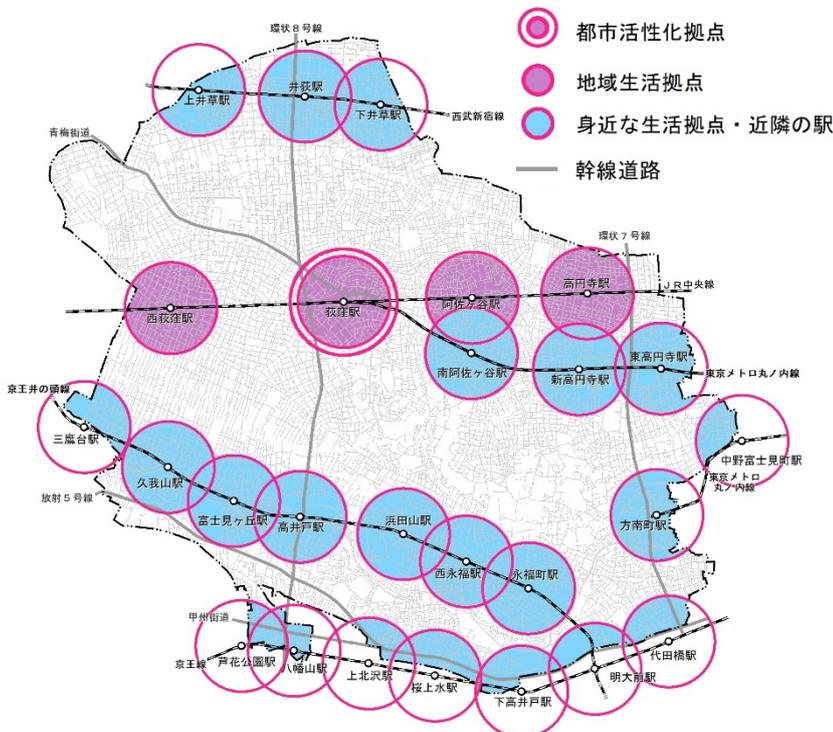
【都市活性化拠点・地域生活拠点ごとの商業系延べ床面積の状況】



【身近な生活拠点ごとの商業系延べ床面積の状況】



【各拠点別集計の状況図（駅から500m圏）】



※各駅からの距離500m圏内について、GISデータを集計(着色した範囲を集計重なった部分については重複して集計)

※区境付近の駅に関しては、杉並区内のみの分析